

JASS 13 金属工事標準仕様書改定の趣旨

—1998年11月改定版—

改定前の JASS 13 金属工事は、1960 年（昭和 35 年）に制定されたものであり、以後今回まで改定は行われていない。この間、前回の制定時における技術・社会などの諸条件が年月とともに大幅に変化したため、内容が実態になじまないものとなり、1994 年 4 月に JASS 13 金属工事の改定作業に着手した。本会以外の各種の金属工事仕様書を検討したうえで、本会としての金属工事仕様書のあるべき姿を設定し、過去の JASS にとらわれない、国際化社会など時代の条件に適合する仕様書を成案すべく、慎重に審議を重ね、1998 年 2 月に JASS 13 金属工事の本文案を完成した。この改定案は、材料施工委員会の議を経て建築雑誌（1998 年 8 月号）に発表され、この改定案に寄せられた意見を参考にして、さらに修正を加え、合わせてその解説を作成したものが、ここに示す本文および解説である。

今回の改定では、JASS は契約書の一部を構成するものであるとともに、技術標準を示す役割も存在するという認識に立ち、材料・部材・部品等の品質が適正で、それらの製作・組立・施工が適正であれば適正な品質の金属工事が施工されるという、従来の積上げ方式的品質規定の考え方のみではなく、工業生産品特有の性能発注的品質規定の考え方も加え、新しい考え方に従った大幅の全面的改定を行った。

前回制定時の金属工事の実態と現在の金属工事の実態を比較すれば、過去は参考にならぬほど変化してしまった。また、今後の金属工事の動向を考えれば、国際化社会、コンピュータ社会などを迎えて、それら時代の条件に耐えうる JASS が要求される。したがってこれらの条件も考慮に入れた今回制定の JASS 13 金属工事は、まったく新規のものといってよいものとなった。

本書の解説は、本文だけでは分かりにくい語句・部品等に関する図などを用いての解説、規定の理由およびその背景、補足事項、問題点等について、執筆者の責任において述べたものである。

本書が、適切に運用、活用され、金属工事の健全な施工およびその発展に寄与できることを期待している。

1998 年 11 月

日本建築学会

JASS 13 金 属 工 事

目 次

1 節 金属工事共通事項

本文 解説
ページ ページ

1.1 一般事項	1	99
1.2 用語	1	100
1.3 種別	2	102
1.4 表示方法	3	104

2 節 表面仕上げ類工事

2.1 一般事項	4	105
2.2 材料・部材・部品・付属部品	11	127
2.3 完工品	15	133
2.4 施工図書の作成	20	140
2.5 製作	20	142
2.6 運搬および保管	21	145
2.7 取付け施工	22	146
2.8 引渡し	24	150

3 節 フェンス類工事

3.1 一般事項	24	152
3.2 材料・部材・部品・付属部品	30	167
3.3 完工品	34	173
3.4 施工図書の作成	38	179
3.5 製作	38	180
3.6 運搬および保管	40	183
3.7 取付け施工	40	184
3.8 引渡し	42	189

4 節 手すり類工事

4.1 一般事項	42	191
4.2 材料・部材・部品・付属部品	48	212

4.3	完 工 品	52	218
4.4	施工図書の作成	57	225
4.5	製 作	57	226
4.6	運搬および保管	59	229
4.7	取付け施工	59	230
4.8	引 渡 し	61	235

5節 面格子類工事

5.1	一 般 事 項	61	237
5.2	材料・部材・部品・付属部品	68	254
5.3	完 工 品	72	260
5.4	施工図書の作成	76	267
5.5	製 作	77	268
5.6	運搬および保管	78	271
5.7	取付け施工	78	272
5.8	引 渡 し	80	277

6節 はしご・キャットウォーク類工事

6.1	一 般 事 項	80	279
6.2	材料・部材・部品	87	294
6.3	完 工 品	90	300
6.4	施工図書の作成	94	305
6.5	製 作	94	306
6.6	運搬および保管	95	309
6.7	取付け施工	96	310
6.8	引 渡 し	98	315